

平成21年5月7日

各位

会社名 株式会社 新生銀行  
 代表者名 代表執行役社長 八城 政基  
 (コード番号 : 8303 東証第一部)

### 平成21年3月期(第9期)通期業績予想修正に関するお知らせ

当行は、本年2月3日に公表いたしました平成21年3月期(第9期)の連結・単体通期業績予想を下記のとおり修正いたします。

平成21年3月期第4四半期においても、平成19年8月の米国サブプライム住宅ローン問題に端を発した、過去に例を見ない混乱の影響から、株式市場は不安定な状態で推移し、米国、欧州とアジアのクレジット市場でも市場環境が悪化するなど、世界および日本経済への影響が続いています。特に、国内経済や金融業界への影響も一層深刻なものとなりました。

そのような大変厳しい事業環境において、当行は、発行価額を大幅に下回る時価で取引されていた優先出資証券や劣後債などの一部買戻しを適宜行い、平成21年3月期下期において、買戻益を計上いたしました。また、一時的な費用計上を伴う業務の再編(リストラ)を着実に実行するなど、次期以降に繋がる施策に取り組みました。当行は、このような第4四半期の業績を踏まえ、また今後の業績回復へ向け、減損、評価損、貸倒引当金など保守的な手当てを行ったことにより、平成21年3月期の連結・単体通期業績予想を下記のとおり修正いたします。

#### 1. 当期の業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(単位:億円)

【連結】	経常収益	経常利益 (△は経常 損失)	当期純利益 (△は当期 純損失)	1株当たり当期純利益 (△は1株あたり 当期純損失)
前回見通し(平成21年2月3日公表)(A)	6,800	△400	△480	△24円44銭
今回見通し(B)	6,020	△1,630	△1,430	△72円81銭
増減額(B-A)	△780	△1,230	△950	△48円37銭
増減率(%)	△11.5	-	-	-
(ご参考)前期実績(平成20年3月期)	5,935	112	601	38円98銭

(単位:億円)

【連結(キャッシュベース)】*	当期純利益 (△は当期 純損失)	1株当たり当期純利益 (△は1株あたり 当期純損失)
前回見通し(平成21年2月3日公表)(A)	△310	△15円78銭
今回見通し(B)	△970	△49円39銭
増減額(B-A)	△660	△33円61銭
増減率(%)	-	-
(ご参考)前期実績(平成20年3月期)	713	46円31銭

\* 純利益(または純損失)からのれんに係る償却額及び無形資産償却とそれに伴う繰延税金負債取崩を除いたもの

(単位:億円)

【単体】	実質業務純益 (△は実質業務 純損失)**	当期純利益 (△は当期 純損失)
前回見通し(平成21年2月3日公表)(A)	△320	△980
今回見通し(B)	△650	△1,570
増減額(B-A)	△330	△590
増減率(%)	-	-
(ご参考)前期実績(平成20年3月期)	672	532

\*\* 経営健全化計画ベース

## 2. 業績予想修正の理由

連結当期純利益予想の下方修正は、主に(1)米国・欧州向け CLO(一次証券化商品)にかかる減損<sup>(注)</sup>、(2)連結子会社株式会社アプラス(以下、「アプラス」)にかかるのれんの追加償却(単体におけるアプラス優先株式への投資に対する減損に対応したもの)、(3)リストラ関連費用の計上、(4)アプラス、連結子会社シンキ株式会社における過払利息返還損失引当金の追加計上、(5)繰延税金資産の取崩、(6)主にノンリコースローンに対する追加的な貸倒引当金の計上などを踏まえ、480 億円の連結当期純損失から 1,430 億円の連結当期純損失に修正するものです。

一方、キャッシュベース連結当期純利益予想は、310 億円の キャッシュベース連結当期純損失から、970 億円のキャッシュベース連結当期純損失に修正いたします。なお、連結当期純損失とキャッシュベース連結当期純損失の修正幅の差は、上記修正理由(2)ののれんの追加償却の影響がキャッシュベース連結当期純損失には含まれていないことによるものです。

単体通期業績予想につきましては、主に上記の理由により、単体当期純利益予想を 980 億円の単体当期純損失から 1,570 億円の単体当期純損失に修正いたします。

(注) CLOの減損については、理論価格ではなく市場価格に基づいて実施しております。

以上